令和6年度第2回岡崎市障がい者自立支援協議会会議録

- 日時 令和6年7月23日（火）午後1時30分～午後3時30分
- 場所 友愛の家 多目的室
- 出席委員 加賀時男、三浦博幸、稲葉英隆、青木裕美、杉田雅博、三浦宏太、岡田伸一、塩沢美穂子、安井隆光、杉浦真理子、井村国稔、清水敦子、稲垣泉、浅野宗夫、荻野義昭、壁谷幸昌、守本健児、杉木陽介、山本真栄美、野本薫
- その他出席者
一般社団法人バンデ 大野、近藤、山田、外山、藤井
株式会社ナイスマン 磯谷、狩山
- 事務局 障がい福祉部長 阿部田洋
障がい福祉課長 高橋広
同施策係長 内田直幸、同主事 下畑久美子、高桑未紗樹、白井麻友
同審査給付係長 酒井晃嗣
健康増進課こころの健康推進係長 西美緒香
障がい者基幹相談支援センター 大木基史、野月裕弓、鳥居信子
- 議題 (1) 日中サービス支援型共同生活援助の事業報告について
一般社団法人バンデ
① 日中支援型障がい者グループホーム 綴～つづり～岡崎大樹寺
② 日中支援型障がい者グループホーム 綴～つづり～岡崎岡町
(2) 日中サービス支援型共同生活援助の事業開始に伴う事業者説明について
株式会社ナイスマン
○ オルトケアホーム真福寺
(3) 令和5年度基幹相談支援センター及び障がい者相談支援事業の実績報告
(4) その他
岡崎市障がい者コミュニケーション条例座談会のご案内

議事要旨

1 開会

○事務局（障がい福祉課主任主査 内田）

ただ今から、令和6年度第2回岡崎市障がい者自立支援協議会を開始いたします。

会議を始める前に、本日の議題1、2について、審査事項などに利用者などの個人に関する情報が含まれております。つきましては、岡崎市情報公開条例第7条に規定する、非公開情報を含む事項について審議等を行う場合に該当するため、議事を非公開とさせていただきます。

また本件に関わる、個人情報及び個人情報が記載された資料につきましては、取り扱いにご注意くださいますようお願い申し上げます。

ここからの議事進行について、加賀会長お願いいたします。

○加賀会長

皆様、暑い中お集まりいただきありがとうございます。

本日は欠席委員はおりません。定数を満たしておりますので、本会議は成立しております。

議事に入る前に、議事録署名者2名を選出したいと思います。お諮りいたします。会長一任でよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

それでは、杉田委員さんと浅野委員さんをお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

次第に沿って、議題1「日中サービス支援型共同生活援助の事業報告について」障がい福祉課から説明をお願いいたします。

～議題1、議題2（非公開）～

○加賀会長

続きまして、議題3です。令和5年度基幹相談支援センター及び障がい者相談支援事業の実績報告について、基幹相談支援センターからご説明をお願いします。

○事務局（基幹相談支援センター 大木）

岡崎市障がい者基幹相談支援センターの大木といいます。よろしくお願ひいたします。

令和6年度第2回岡崎市障がい者自立支援協議会資料というホッチキス止めの資料の33ページをご覧ください。

基幹センターは、総合的、専門的な相談支援の実施と、地域の相談支援体制の強化、地域移行、地域定着の促進、権利擁護や虐待の防止という4つの大きな柱がありますので、説明させていただきます。

まず、総合的専門的な相談支援の実施としまして、困難事例の対応として各相談支援事業所やサービスの事業者様からご相談のあった、昨年度年間の総件数延べ1995件、一昨年度と比べまして1672件から、増をしている状態で対応をさせていただいております。

地域の相談支援体制の強化としまして、相談の訪問、相談支援事業所への事業所訪問を、コロナもあけましたので昨年度から再開をしまして、主に指定特定の相談支援事業所を1人でやられている事業者さんや、2人でやられてる、小さな事業所の方を中心に、15事業所訪問させていただいて、困りごとや近況、今後の展望など、その辺の確認をさせていただいております。

また、委託決定特定で、4月は延べ件数が39件、実人員が18人ということで、18人の相談に対して、39回基幹センターとしては関わりをしました。

指定特定の方で、7人の相談に対して12回、関わりをしました。先ほど相談延べ件数1995件の一部になります。

続きまして、34ページです。

研修の開催ですが、昨年度、グループスーパービジョンという形で、相談員の人材育成というところで、ケースを事例にして2回実施させていただいております。

また、先進地の視察ということで、一宮市の障がい者基幹相談支援センターさんの方にお邪魔させていただいて、同じ中核市として、どのような形で、基幹センターを運営されているのか、自立支援協議会がどんな形で運営されているのか等を、参考にさせていただくために、岡崎市と一緒に視察に行っておりました。

また、権利擁護方針、虐待の防止ということで昨年度の虐待の対応件数、基幹センターで把握している部分ですが、延べ件数で202件ありました。内訳の実人員として要保護者虐待が5件ありました。

あと施設虐待が10件ですが、10件の数え方が、例えば、グループホームやなかった施設で、例えば3人の利用者さんに何かしら虐待があったとすると3件って数えますが、1施設で、例えば1人の職員さんが複数人に暴言を言って、心理的虐待がみみられるとなると、まとめて1件というふうに数えてるので、10件というのが10施設ということではないです。あと使用者虐待が1件ありました。

延べ件数の202件について、何かしらの関係者会議を開く、連絡調整をする、ご本人さんのお話を聞く、事業所に訪問して聞き取り調査をする。などの確認をさせていただいております。

次のページに移ります。虐待防止の関係で、権利擁護というところで研修会を実施させていただいております。

市民向けの研修といたしまして、ふくし相談課さんと協働させていただいて、その当時は防災について、研修を行わせていただきました。参加者、市民の方96名にご参加いただいております。

また、事業所向けの研修ということで、こちらは成年後見センターさんと共同でさせていただいて、主に意思決定支援を中心に、2回の研修をさせていただいて、どちらも50名を超える、研修の参加をいただいております。

相談業務の実績からいろんな形の困難事例や地域移行の相談、虐待の件数、さらには保険制度の利用の相談等々の形で、電話面談、結果と調整等々抱えていますので、その件数が、最終的に基幹センター全体で動いた数字になります

38 ページです。センターの方針については、毎年変わりません。総合的専門的な相談支援の実施、地域の相談支援体制の強化、地域移行地域定着の促進、権利擁護や虐待の防止については国の基準で決まっているので、特に何かが変わることはないですが、業務内容は中身が変わってたりします。

39 ページの地域の人相談支援体制の強化の部分で、地域生活支援拠点の整備に関する話し合いの場への参画ということで拠点整備について、ちょっと中心的にとというか、重点的に話をしなければというところでここが業務内容に乗っかっています。

知的・精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステム構築への参画というところで、保健所さんと共同してやらせていただく部分なんですけど、いわゆる、にも包括の部分、基幹センターの方に合わせていただければなというところで業務内容の方に乗っかってきています。

その他は特に変わりはないですが、40 ページに今年度の重点事項が書かれています。

こちらも例年それほど大きく変わりませんが、各相談支援事業所のフォローや、OJT等々をさせていただくこと、地域の相談支援体制としては、障がい福祉課さんとは、会議を定期的にかかせていただいて、課題の解決に向けて行かせていただくことだとここにグループスーパービジョンの手法を活用した研修会の実施は今回もこちらで載せさせていただいております。

あと地域移行の地域定着の促進の部分でも包括の構築のための協議の場に参加をさせていただく、というのはこちらも重点事項として、載せさせていただいております。

また権利擁護虐待の防止についても、各事業所さん法人さんからご依頼のある虐待防止権利擁護の研修などの、こちらでも実施させていただくことと、通常の市民向け、事業所向けの研修の方も、変わらず実施させていただきます。

最後のページ、年間通してこれぐらいの会議研修等々がベースとなって、他に細かいものが入ってきますけども、こういうような形で、今年度も、昨年度以上に組み合わせていただければなと思ってますので、よろしくをお願いします。以上です。

○加賀会長

ありがとうございました。只今の報告に御質問はございますか。

(野本委員 挙手)

○野本委員

公募委員の野本です。

1点だけちょっと質問させていただきたいのですが、相談のあった数とか、対応された数、いただいたんですけどその成果といいますか、対応約1900件の中で、どのぐらいの数の相談された方が救われたのか、そういった数字は、非常に難しいかと思いますが、実際のところとどうなんでしょう。

○事務局（基幹相談支援センター 大木）

ご質問ありがとうございます。

先ほどおっしゃられた通り、難しい数字だなとは思っていますし、相談支援そのものがこの点を取って成果が出たというふうに見ていいのかっていうところも含めまして、すごく悩ましいなとは思っています。基幹センターが何かして、その対象者の方や利用者の方が改善されたとか、生活が良くなったとか、生活の質が上がったとかっていうことは、どちらかというとなんて、普段の、相談支援事業者さんが中心になって、その辺を対応されているので、私たちはどちらかというとなんて、先ほどの件数であった、相談支援の事業者さんがちょっと困ってしまったというところを一緒に整理させていただくとか、関係者会議に入って、一緒にOJTさせていただくなどの業務になるので、私たちもそこは計りかねる部分があると思います。

ただ、虐待の関係のケースで、私たちが動いているものに関しては、何かしらの形で結論というのか、虐待の行為があったもしくは虐待でないにしてもちょっと不適切な支援があり、ついては、市と一緒に、ここが良くなかった、これは改善してねという話を、行政や当施設が、親御さん達と相談させていただくので、その分はどちらかというところある程度成果が出ているという件数になるのかなとは思っています。数字的に、割合等は難しいかなと思います。

○野本委員

どうもありがとうございます。

難しいことを承知ですが、このような内容だけでも結構ですので、何か自分たちが頑張ったことがこんなことに繋がったというふうなことも含めて報告いただけると、もっと良いかなと思いました。

○事務局（障がい福祉課主事 高桑）

障がい福祉課施策係高桑と申します。座ってご説明させていただきます。

相談支援事業の実施状況について、こちらの自立支援協議会で確認することとなっておりますので、ご報告させていただきます。

43 ページ、資料 3-2-1 の、令和 5 年度岡崎市障がい者相談支援事業、相談対応実績をご覧ください。こちら上段の表は、令和 5 年度の委託事業所と各担当地区を記載しています。

岡崎市では、障がい者が地域において自立した日常生活や社会生活を送ることができるように、障がい者やその介助者などからの相談に応じ、必要な情報の提供や権利の擁護を行う相談支援事業を委託しております。委託先について、令和 4 年度は 4 事業所に委託してありましたが、令和 5 年度からは 6 事業所に委託しており、2 事業所増となっております。

次に、下段の表をご覧ください。こちらの表は、令和 5 年度の 6 事業所の相談対応実績のまとめとなっております。年齢と障がい種別は相談実人数であり、支援方法は 1 相談につき、主な支援方法を 1 件とカウントしております。支援内容につきましては、複数カウントしております。

裏面をご覧ください。こちらは、令和 4 年度と令和 5 年度の相談対応実績を比較した表となっております。

相談対応の実績についてですが、今年度は 18 歳未満 18 歳以上の合計で 3635 件。令和 5 年度新規委託事業所分を除くと、3326 件となりまして、昨年の令和 4 年度よりも相談件数が増えています。

支援方法については、令和 4 年度と令和 5 年度を比べると、特に訪問、来所相談の件数が多くなっております。

また相談内容による、関係機関との連絡調整も増えていると見ることができます。

支援内容について、昨年度と比べて大きく変わった点は、権利擁護に関する支援の相談が令和 5 年度新規委託事業所である、ぱぷりか及び指定、相談支援事業所げんきを除くと、123 件であり、約 5 割程度増加となっております。

続きまして、45 ページの資料 3-2-2 をご覧ください。こちらは 6 事業所ごとの、令和 4 年度と令和 5 年度の相談対応実績を比較した表です。令和 5 年度新規委託事業所を除いた 4 事業所のうち、2 事業所で支援件数は増えているという結果となっております。

続きまして、51 ページからの、資料 3-2-3 をご覧ください。こちらは令和 5 年度障がい者相談支援事業評価シートです。これより評価シートとさせていただきます。

評価シートでは、各相談支援事業委託事業所が、項目ごとに自己評価を行い、自己評価に対する追記として、取り組みの成果や課題、工夫や具体例などを備考に記載しております。項目が多くなっておりますので、評価シートのうち、各事業所の相談支援についての所感を簡単にお伝えいたします。

社会福祉協議会について、P52 ページの、相談支援体制に着目すると。数字の 2 の相談支援、において、支援方法や事業所紹介の際には、公平な視点に基づき、複数の選択肢を提示するように努め、人権に配慮しているとあり、適切な相談支援が実施できていると見ることができます。

次に、生活支援センター山中について、52 ページの 2、相談支援体制に着目すると、数字の 2、相談支援において、新規の相談者には必ず相談員 2 名体制で面談し、1 人の相談員の個人的な思いやり方で紙面支援しないように、対応や支援方法について、面談した相談員 2 名で相談しながら進めているがありまして、利用者にとって適切な相談支援が実施されていると見ることができます。

次に、ぴあはうすについて。55 ページに飛びまして、相談支援体制に着目すると。数字の2、相談支援において、まずは相談内容を聞き、利用者の気持ちや希望を客観的に把握できるように努めているとあり、利用者にとって適切な相談支援が実施できていると見ることができます。

次に、福祉の村について、55 ページの、相談支援体制に着目すると、数字の2、相談支援にあって、相談内容を、客観的に把握するために、相談受け付け票の回覧、複数の職員でのケース共有等を行い、利用者のエンパワーメントを大切にしたい面的な支援ができるように配慮しているとあり、利用者にとって適切な相談支援が実施できていると見ることができます。

次に、ぱぷりかについて、58 ページの相談支援体制に着目すると、こちらの数字の相談支援において、本人中心の相談支援であるように努めて入れ替わりまして、利用者にとって適切な相談支援が実施してできていると見ることができます。

最後に指定特定相談支援事業所現金について、こちらも50、58 ページの2、相談支援体制に着目すると、数字の2、相談支援において、ケース内容に応じて、複数人で支援方法を検討しながら、選択肢や提案が増えるように取り組んでいるとあり、利用者にとって適切な相談内容が、相談支援が実施できていると見ることができます。

資料のように、実績報告及び評価シートから、すべての事業所において、相談支援事業が運営されていると判断しております。

最後に、60 ページの資料3-2-4をご覧ください。こちらは令和6年度からの相談支援事業委託先と担当地域を記載した資料です。委託先事業所の変更はありませんが、福祉の村相談支援事業所に従たる事業所が増えたということで、担当地域が変更となっております。またその他の地域についても、全体的なバランスを考え、一部変更をさせてしております。参考までにご報告させていただきました。

報告は以上になります。

○加賀会長

ただいまいろいろ報告していただきましたが、それにご質問等がございますか。

○守本委員

岡崎市聴覚障害者協会の守本と申します。

相談の実績なんです、前々からお願いしているんですが、障がいの区別として身体、重身とか知的とか項目がありますよね。

できれば、参考情報として、聴覚障がい者は、どのぐらいなのかっていうのを加えて欲しいなっていうふうに思っています。

基本的に聴覚障がい者は身体障がい者の中に含まれるとは思いますが、今後、聴覚障がい者に対してもどのような悩みがあったのかとかいうようなことも、当事者団体としては知っていきたく思いますので、そのことも含めて、今後の報告のとき、方法の仕方を、ちょっと見直しをしていただければありがたいなと思っております。よろしく申し上げます。

○事務局（障がい福祉課 高桑）

おそらく昨年度も同じご意見いただいたかなというふうなところなんですけれども。

こちらの、毎月委託の相談支援事業者の方々に報告をしていただいているっていう部分なので、ちょっとどこまで負担感をふやしてしまうっていうふうな面もありまして、ただですね、各障がい種別で何かお困りか等、どんな相談内容があったとか、そういうようなことは、委託相談支援事業所に直接、こちらの事務局から確認させてもらって、森本委員の方にお伝えするというところをおそらく昨年か一昨年度実施させていただいたかなというふうな記憶にありますので、申し訳ありませんが同じようなご対応がご希望の場合は、また直接私の方と、やりとりしていただければと思います。よろしく願いいたします。

○杉木委員

1つお願いがあるんですけど、この最後の事業所のいろんな細かいアンケートの記載は非常にいいんですけども、それをまとめるとどうなるのかなっていうのが出てくるといいなと思うんです。

例えば、その事業所が抱えてるところから、これはもう私の相談支援事業、よくできてるところとか、こういうところはやっぱり難しいところとか、それから課題は何なのかっていうあたりを、できればまとめるような形で報告していただけると私たちはわかりやすいんです。

非常に良いところを取り上げてそういうところをうまくできてるっていうような感じでおっしゃっていただいたんですけど、実際そうなのかなっていうのは、私は思っていて、課題というのを1回ここに入れていただいて、それぞれの事業所の中で、やっぱりここ難しいよっていうところとか、こういうところは、一生懸命やったんだけどなかなかうまくできなかったとか、そういったその課題みたいところで、それぞれのところも聞いていただけると、よりはっきりしてくるから。

ただ、そういういながら、5つのアンケート項目から、1つにまとめるってのは大変難しいことだと思いますので、できる範囲で、ぜひそういう方向を目指していただければありがたいなと思います。以上です。

○事務局（障がい福祉課 高桑）

今だこちら、エクセルの回答様式でご依頼させてもらってるんですけども、そのコメントで課題等があれば答えをお願いしますっていう書き方にさせてもらってるので、今後は例えば、課題の記載をお願いしますっていうふうな、確実に書いていただけるような形で、ちょっと検討をしていこうかなと思います。

ありがとうございました。

○荻野委員

父母の会荻野です。

今エクセルという言葉が出ましたけども、ずっと書面でやってるような書き方がしております。

ぴあはうすさんだけは、クラウドを使ってるというのはさっきありましたけども、正直ずっと文書で続くのかなっていうのがちょっと疑問に思いました。以上です。

○加賀会長

ありがとうございました。

その他質問が無いようですので、以上で議題3を終了したいと思います。

次に議題4で、その他でございます。よろしく願いいたします。

○事務局（障がい福祉課主任主査 内田）

それではその他といたしまして、この後行われます障がい者コミュニケーション条例座談会についてご説明させていただきます。

まず先月末に多くの委員の方に対しましては、ご案内を落とすような形で送らせていただくことになり、誠に申し訳ありませんでした。

昨年度、皆様方にご意見を伺いながら制定させていただきました障がい者コミュニケーション条例について、今年度から本格的に取り組みを開始させていただいております。

事前資料とともに、皆様にお配りさせていただきました、条例のパンフレットに関しまして、本協議会の権利擁護支援専門部会において、ご説明させていただいた上で、様々、ご意見をいただきまして、アンケート等もとらせていただきまして、ひとまず形にさせていただきました。

今後、冊子として印刷して配布することや、ホームページでの崩壊、講演会等での配布などといった活用を進めていきたいというふうに考えております。

しかし今回の条例が当事者だけでは理解が進まないのと同じように、市においても障がい福祉課だけで取り組みを進めていくということにはできないというふうに考えております。そこで今回のような座談会を企画させていただきました。

急用となりましたので、本協議会の委員の方の中で、お時間の都合のつく方にご参加いただくという形をとらせていただきました。

協議会の終了後、皆様には現在の席を離れていただきまして、その間に、職員で若干ですが、椅子をちょっと前に出すような形で、マルを作らせていただきまして、それでお話をしてもらおうというふうに考えております。

すぐ準備できると思いますので、席の方は慣れていただきまして、室内で待っていただくのは結構です。

座談会ですが、一応3時45分目標でスタートしたいというふうに思っております。

時間がちょっとタイトで申し訳ありません。

大変お手数おかけいたしますが、ご協力をお願いいたします。

次回の予定ですが、10月22日火曜日、こちらを予定しております。

以上で終了となります。私の説明が前後してしまいまして申し訳ありません。

本日の日程は終了いたしました。協議会を閉会いたします。ありがとうございました。